

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

5月9日、東京の「ナースウェーブ・看護の日」に都内の大学病院や日赤病院、一般病院や精神病院等の労働組合から、27



新宿駅西口にいる人たちにちゃんと訴えることができました

ナースウェーブ・看護の日行動

署名が集まりました。

この取り組みがはじまったのは1989年。『看護婦を増やして下さい』と日比谷公会堂に1300人の看護婦が集まり集会和銀座をデモしたことにマスコミが注目しました。あつという間に全国へ広まった看護婦闘争「ナースウェーブ行動」の中、1990年に当時の厚生省がナイチンゲールの誕生日の5月12日を「看護の日」と制定し、それ以降毎年この時期に合わせて行われている行動です。

一時間で1300筆超える署名

代々木病院は当初からこの取り組みに参加しており、今年も新人看護師6人含む10人で、新宿西口で行われた大宣伝行動と、午後からの講演を聞いて学習してきました。宣伝行動で、新人看護師3人が街頭宣伝力に上りました。医療が高度化する中で労働密度が増し人員不足に拍車がかかっている事や、勤務と勤務の間隔が短く、医療と看護の安全が脅かされている現状が、都内や全国

間違いありません。そのなれば地域の中小企業でさえ、生き残れなくなる」と危機感をあらわにしました。そして、日本共産党の志位和夫委員長は、「国民のみなさんが政権交代に託した自民党政治を変えてほしいという願いをこごとく裏切り、暮らして平和を踏みつぶす道をやみ雲にひた走る。もはやこの政権には日本の政治の舵取りをする資格はありません」と強調しました。

また、署名を訴えていた新人看護師は、初めての街頭での署名行動に戸惑っていました。思い切った大きな声で「看護師を増やす署名にご協力を」と訴えると、1人の方が戻ってきて署名し「頑張ってる」と声をかけてくれました。「とてもうれしかった」「みんなから指



3人チームになって、試行錯誤しながら署名を集めました

第83回中央メーデー 大増税は購買力を奪い 景気を悪化させる



全国から集まった21000人もの人々

第83回中央メーデーが5月1日、代々木公園で行われ、全国から2万1000人が集まりました。代々木病院をはじめ東京勤労者医療会の各院所からは120名が参加し、集会後は恵比寿駅まで、脱原発や医師・看護師などの増員を求めデモ行進を行いました。

20兆円もの負担増

全労連の大黒作治議長は実行委員会からのあいさつで、「今回の消費税10%への引き上げと、年金削減などを合わせると、20兆円、1所帯あたり実質25・5万円もの負担増と所得減少となり税収の落ち込みは97年(税率5%)に引き上げられた年)よりひどくなる」と目に見えている」と訴えかけました。

消費購買力奪われる 続いてあいさつを行った全国商工団体連合会の国分総会長は、「大増税により莫大な消費購買力が奪われ、景気が悪化することも

被曝しながらの看護 震災の被災地からも訴えがありました。

舵取りする資格なし

「家族ともバラバラになってしまった」「無くした物は大きすぎます」と松崎さんは述べ、原発ゼロや自然エネルギーについて真剣に考えず、なす崩しの原発の再稼働を考

原発から3キロの双葉厚生病院(福島県双葉町)の看護師・松崎純子さんは、原発事故で被曝しながらも、家族との連絡も後回しに「自分も避難したい」と葛藤しながら、患者さんを必死で看護しました。

月半分夜勤 疲労困ぱい

また、日本医科大学の看護師・清水明子さんは、「看護職員の夜勤は連続16、17時間、多いと月半分が夜勤、これでは疲労困ぱいヘトヘト」と語り、毎年10万人の看護師が離職し、



赤ちゃんもお母さんといっしょにデモに参加

最後に清水さんは、「私たち国民が病気になるっても高齢者になっても、安心して生活することは、人間として当たり前の条件です。この条件を満たすまで医療・介護の現場にいる私たちは声を大にして訴え・運動し続

メーデー・パレードで 思いを伝える

柏原恵理(視能訓練士。今年4月入職)

今回初めてメーデーに参加し、2万人を超え参加者の数に圧倒されました。様々な現場の思いがあることを知り、私たちが変わるべき現実の声を受け止め、訴え続

今月初めてメーデーに参加し、2万人を超え参加者の数に圧倒されました。様々な現場の思いがあることを知り、私たちが変わるべき現実の声を受け止め、訴え続

これからも変化し続ける法律や、様々な問題を世の中に伝える、良い機会であって欲しいと思います。

千駄の萱

脱原発の声を公にして、テレビから姿が消えた山本太郎。行動の原動力は?

どんな生活をしていくか知りたくて彼の講演を聞いた▼事故の前までほとんど知らず危険性も危機感も持っていなかった。彼の心が動いたのは「年間被曝量の限度を1ミリシーベルトから20ミリシーベルトに引き上げる」という政府の発表▼そうか、政府は国民を捨てるつもりだ。嘘つきで無責任な人たちに未来を任せておけない。行動しなければ。仕事は「真綿で首」のようにだんだん減るだろう。でもこのままではいやだ▼仕事は一気に減った。スポンサーの意向だけではない。「役者は他にもいる。無理して彼を使うことはない」という空気が芸能界に満ちていた▼でも今、美輪明宏に呼ばれ演劇稽古に出演中。美輪さんも素晴らしい。彼が集会に出たいとの申し出に、3月11日は稽古を休みにしたという。東海テレビ制作の番組も予定されている▼「元ではありませんが、今も芸能人です。活動もしていきます」と言い切る彼の声、爽やかに心の中を吹きぬけた。